

福岡市NPOボランティア交流センター評価委員会議事録（要旨）

- 1 日時 令和4年9月1日（木）10:00～13:00
- 2 場所 福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム
- 3 出席者 （出席委員3名）
蓮見委員、木下委員、千葉委員
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事（要旨）

（1）開会

（2）会議の公開・非公開について

評価委員会設置要綱に基づき、「評価基準に関すること」及び「指定管理者からの意見聴取」は公開、「評価の実施」については非公開とする。

（3）評価基準について

【委員】評価シートに対する意見なし。

（4）指定管理者からの意見聴取

【委員】コロナ下において例年と比べ、センターの意義や活動について評価するのが非常に難しい。施設の管理はあたりまえにできている一方で、あすみんマネジメントグループが得意とするデザイン性や企画性は活動ができないため、事業の特異性の部分の評価が難しい。団体の抹消が64団体、新規登録が40団体だが、登録団体数が減少しているのは、コロナ下でモチベーション低下が原因か。

【指定管理者】モチベーションの低下によるものはあまりなかったと思う。毎年80団体程抹消するが、1回だけ利用してもう使わないから更新しないという団体が多い。団体メンバーの高齢化、コロナ下で活動ができないから、モチベーションの低下等で解散というのは1桁。

【委員】来館者数の減少については難しい状況ではあるが、オンラインが普及していく中で、来館しない、もしくは相談も電話でといった変化が起きているので、来館者数の設定の見直しはすべきだと思う。また、一番重要だと思ったのはスタッフのスキルが向上していることに伴い相談の対応がスムーズになる等、センターとしての機能が充実しているところである。スタッフは12人いらっしゃるがセンターへの所属なのか。

【指定管理者】九州コミュニティ研究所かミカサの所属。

【委員】副業ありの時代になってきて異なる所属の人が入り混じって、得意なことを発揮できる環境なので、働き方も変わってくると思う。離職者が0であること、クラスターが起きてないということに関しては、労働環境が良いと思った。また、人材育成やセンターの目的という点で自分の固定概念が変わったところが今回の評価のポイント。広報については、様々なSNSがある中で、これまで公益活動の支援のためのセンターであったと思うが、今後は公益活動を全く知らない人たちに「公益活動とは」

というところから発信していけるような内容になっていかなければならないと思う。そのため、動画映えするようなプロモーション的な企画が必要。例えば浴衣を着て参加する「打ち水大作戦」では、水を撒くことでヒートアイランド現象を緩和させるという目的があったり、朝顔を育てましょうという「明後日朝顔プロジェクト」ではプランターを設置し、朝顔をたくさん伸ばすことで、社会課題である落書きや違法駐輪の減少につなげたり、一石何鳥かのことができた。今これをインスタでやると映えると思い、今後あすみんでもこういった社会課題の解決につながるような企画を立案していくことにも非常に興味がある。

【指定管理者】今は若者もあたりまえのようにボランティアをやっていることが分かったので、これから先はそういったインパクトがあるようなもの等、もう1つステップアップが必要だと思う。

【委員】さらに楽しいボランティアというような転換期だと感じた。

【委員】一昨年よりもさらに閉館日数が増え大変な時期であるが、来館者数の1日平均は戻ってきている。確かにオンライン利用者も増えていると思うが、対面での相談やお話の中で、その人がまとっている雰囲気や周辺情報から主訴を探るという意識を持ってコミュニケーションをとっていることがとても良いポイントだと思う。そういったところから、少しずつでも来館者数が戻り、あすみんに行けば何か解決できそうという意識が皆さんに広がると良い。また、スタッフのスキルアップにより一般相談が増えてきたとのことであったが、具体的な相談内容はどのようなものが多いのか。

【指定管理者】ボランティアや団体の情報を教えて欲しい、ボランティアに参加したいといった内容が多い。年齢は割と若く、大学のゼミや研究会であすみんを紹介されて来られる方もいる。ご高齢の方については団体の運営に関する相談が多い。

【委員】アンケートの回答者の世代分けを見ると、比較的年齢が高い。

【指定管理者】70代とか。

【委員】実際の利用者とアンケートの回答者で年齢に偏りがあるのか。

【指定管理者】それは否めないが集計の時期にもよる。ただ利用者においては70代が多いのは確かで、定期的に来られている方たちは、むしろ80代の方が多い印象。皆さん勉強熱心で生涯学習のような感覚でボランティアをされている方だと思う。

【委員】例えば登録団体が448団体あるが、団体代表者の年齢層や団体加入メンバー、活動メンバーの平均年齢やどの世代が多いのかという確認はできるか。

【指定管理者】アンケートに会員の年齢構成について問う項目があり、50代、60代、70代とほぼ同じくらいの数字になっている。

【委員】そうすると、高齢化で活動できなくなる団体も出てくると思うので、どうやって20代、30代、40代を巻き込んでいくかというところが今後5年、10年先の1つのテーマになると感じたが、その点についてどう捉えているか。

【指定管理者】若者がただボランティアや勉強会に参加するというのは難しいと思うので、働くこととボランティアや市民活動をどうつなぐかを今後考えていかなければならない。社会貢献している企業を評価する仕組みや、社会課題をテーマにした自分たちの事

業の立ち上げや運営をどのようにしていくか等、これからは若者や企業等今まであすみんの対象者ではなかった方たちに、どのようにここを使っていたかというところに力を入れていかなければと思う。

【委員】ここはボランティアだけではなく NPO の支援も行っているので、社会課題の解決をどう事業化するかというところが大きなテーマでもあると思う。ボランティア活動もそうだが、いかに次の世代に対して、今おっしゃっていたような事業化のサポートや何かを結びつけるコーディネートといったことができるか、センターとしての存在意義のようなものをもう1つ何かできるといい。

【指定管理者】社会課題に向き合うという若者はすごく難しがるが、自分の生きがいになるものを見つけられたらみんなもハッピーだよ、それが仕事になるのか、ボランティアで休みの日にするのかはどちらでもいいけど、それを見つけるって宝物だよというような話はしている。そうやって何かおもしろいことはないかなとあすみんを使っていた方が増え、難しがる場所でないと思っていただければと思う。

【委員】コロナ下で様々なことをオンラインで行うことが主流になってきているが、メリットやデメリットがあると思う。特にあすみんは、施設名に交流センターとあるように交流の場であるため、本来は人が集まるというのが一番望ましいと思うが、オンラインとなった場合に交流の面でどのようなところが難しいと感じているか。

【指定管理者】講座をオンラインで受講した長崎の子が、先月初めてあすみに来館し、その子があすみのインターン生とお話ししてくれ、面白いつながりができたと思った。そういった点で、やはりこの場所はなくならないだろうとっていて、オンラインだと多くの人を獲得できるがその場で終わらせないことが大事だと思う。オンラインでの交流は活性度が低いかもしれないが、次の交流にどう向かわせるか、多くの方の中の1人や2人でも次はあすみに行ってみようって思ってもらえるかっていうところに着目していけばいいかなとっている。

【委員】各団体もコロナ下での活動に困っているかと思うが、そういった困りごとや上手くやっていくためのアイデア等をシェアするような機会はあるか。

【指定管理者】観客が15、6人程の小さなスペースで行っている「あすみんステージ」というものがあるが、別の団体と一緒に、発表の順番まで他の団体の発表を座って見ると、交流が生まれているようで、自分たちが意図的にシェアするような機会をつくるというよりは、自由な場を皆さんにお渡しする方が、自然発生的にそういった機会ができると思う。そういった場をたくさんつくってほしい。

【委員】話が変わるが、外国人の利用あるいはこれから外国人にどうアプローチしていくか、そういった点では何か考えているか。

【指定管理者】これまで日本語教室での利用が多かったが今は減少している。しかし、留学生同士、例えばネパール人やベトナム人のネットワーク団体をつくりたいといった相談は多い。また、そういった人たちを支援する日本人の NGO もたくさんあり、そこを上手くつなぐということまではまだできていないが、外国人の利用が少ないと思うことがないほど利用は多い。

【委員】追跡調査を行っているということについて、これはとても良いことだと思う。その

場での満足度や理解度が高くとも、実際に何かに着手する時、実行する時に、大丈夫ですか、どうなってますか、という追跡はとても大事な視点だと思う。この追跡調査について、進捗やどう発展したか、その後の変化等、何かあるか。

【指定管理者】「ハジメのイッポ」の性質上、プログラムに参加した後感想を聞く機会がなかったこともあり追跡調査を始めた。まだ仕組みとして上手くできていないわけではないが、何か月後かに電話をかけて聞き取りを行い、ボランティアを受け入れた団体にその内容を伝えることで、自分たちのやり方を考え直すこと等につなげてもらえるようにしている。

【委員】「ハジメのイッポ」に参加した方が感じたことを団体へフィードバックすることは、その団体にとってすごく大きな気づきになりそう。補助金の評価委員会でもNPOの話の聞いていると、どうしても団体の枠の中での視点であったり、自分たちの課題設定であったり、内にこもっていつてしまいがちで、外部の人が入ったときの化学変化や、気づきが得られるのは、この追跡調査をしてさらにフィードバックをするということ。団体のブラッシュアップにもなりそうな良い取り組みだと思う。

(5) 評価の実施

非公開

(6) 閉会

評価委員会での意見を踏まえ、市が最終評価を決定する。評価結果については、指定管理者へ通知し、市ホームページで公表することとする。